

「教材開発の基礎としての インストラクショナルデザイン」

第4講 教材の分析と設計

久世均
(岐阜女子大学・教授)

「教材の分析と設計」

【目的】

教材の目標分析と教材の設計・開発について手順をおって評価できる。

【学習到達目標】

- a. 何を教えるのか、そのための教材作成のあり方について説明できる。
- b. システム的な教材設計・開発の手順を5つに分けて説明できる。

教材の目標分析

目標分析とは、目標の構造をとらえることである。



評価基準

「教材の分析と設計」

教育目標の分類学

これを教えるためには何が必要かを考えることを目標の構造化という。



**評価基準の重要度を
決定すること。**

「教材の分析と設計」

目標の構造化

学習目標を構造化し、学習の内容と学習行動（能力）をマトリックスにまとめること



ブルームの学習目標の分類

ブルームの教育目標の分類

評 価 Evaluation		
統 合 Synthesis	個性化 Characterization	自然化 Naturalization
分 析 Analysis	組織化 Organization	分節化 Articulation
応 用 Application	価値づけ Valuing	精密化 Precision
理 解 Comprehension	反 応 Responding	巧妙化 Manipulation
知 識 Knowledge	受け入れ Receiving	模 倣 Imitation
認知的領域	情意的領域	心的運動的領域

引用：授業設計マニュアル（稲垣・鈴木 2015）

教材の構造

システムズ・アプローチ

1. 教材の構造による系列化

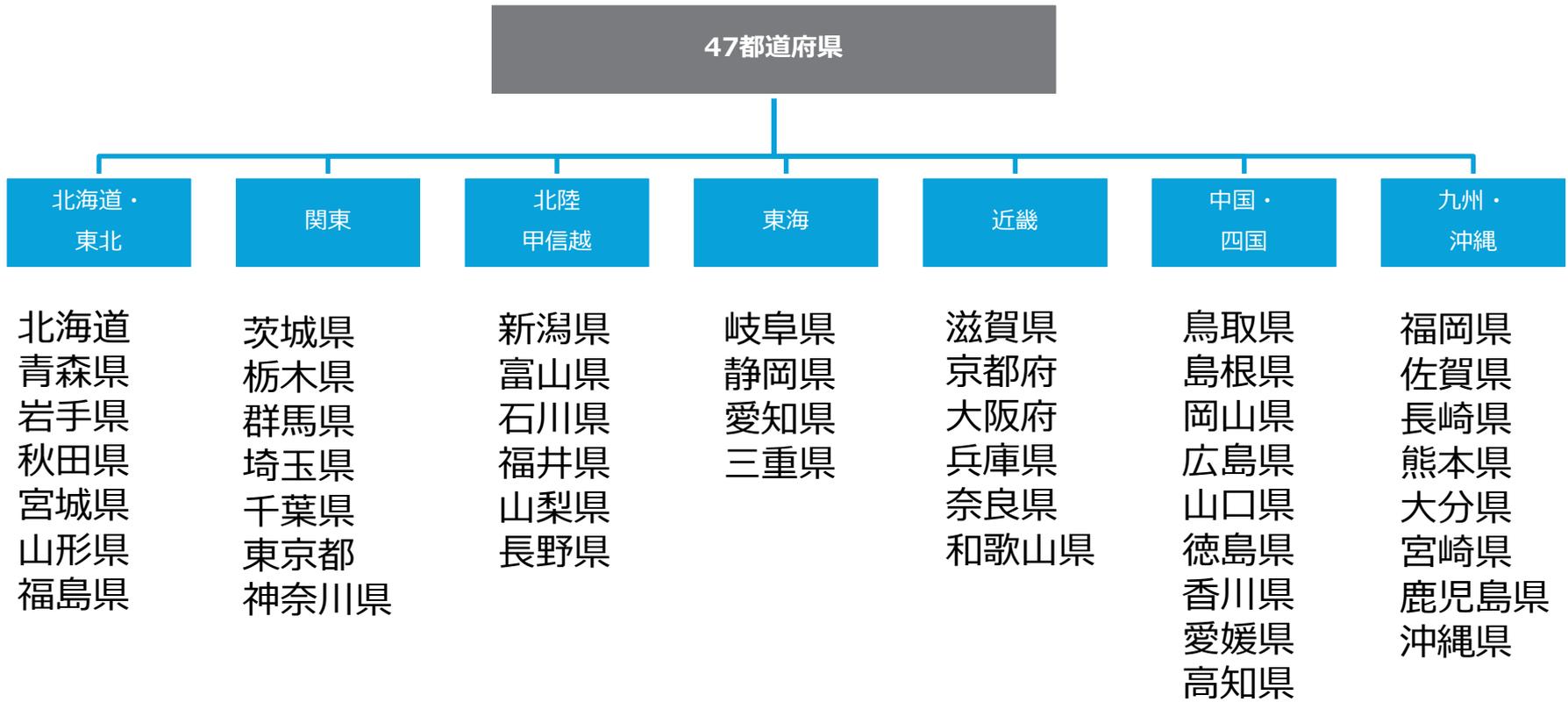
2. 学習行動の分析による系列化

教材の構造分析

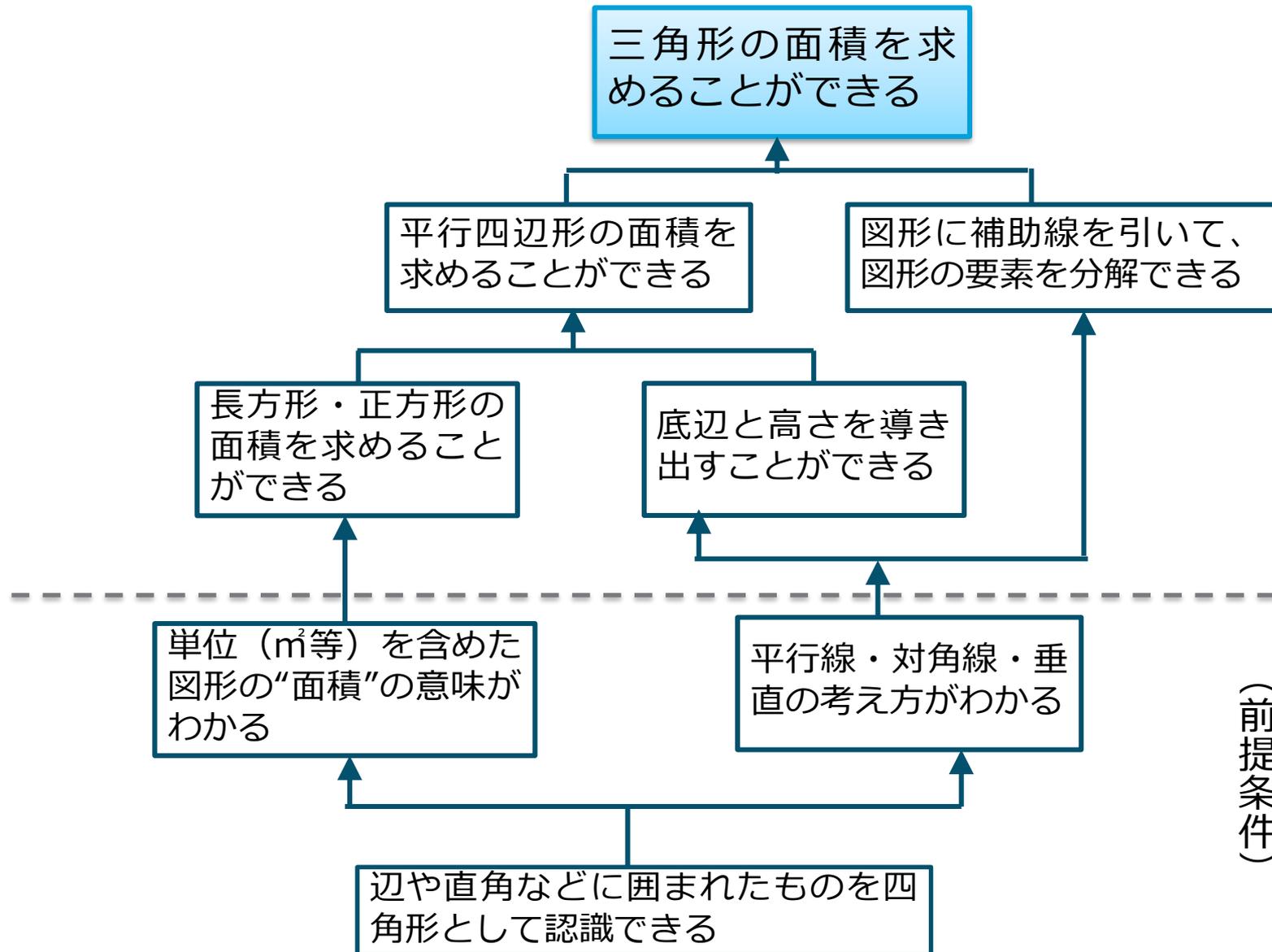
学習課題	言語情報	知的技能	運動技能	態度
分析方法	クラスター分析	階層分析	手順分析	階層・手順分析 クラスター分析
手法	効率のよく暗記するために、関連のある項目を集める。これは、必ずしも上下関係とは限らない。	学習目標の、上位から下位の目標にむかって、教材を使用するための前提条件を探し出す。	学習目標の運動技能を実現するために練習できるステップに分解する。	目標とする気持ちに関連した言語情報や知的技能をみつけ、選択の理由を問うことで態度形成に必要な技能をみつける。

引用：授業設計マニュアル（稲垣・鈴木 2015）を加工

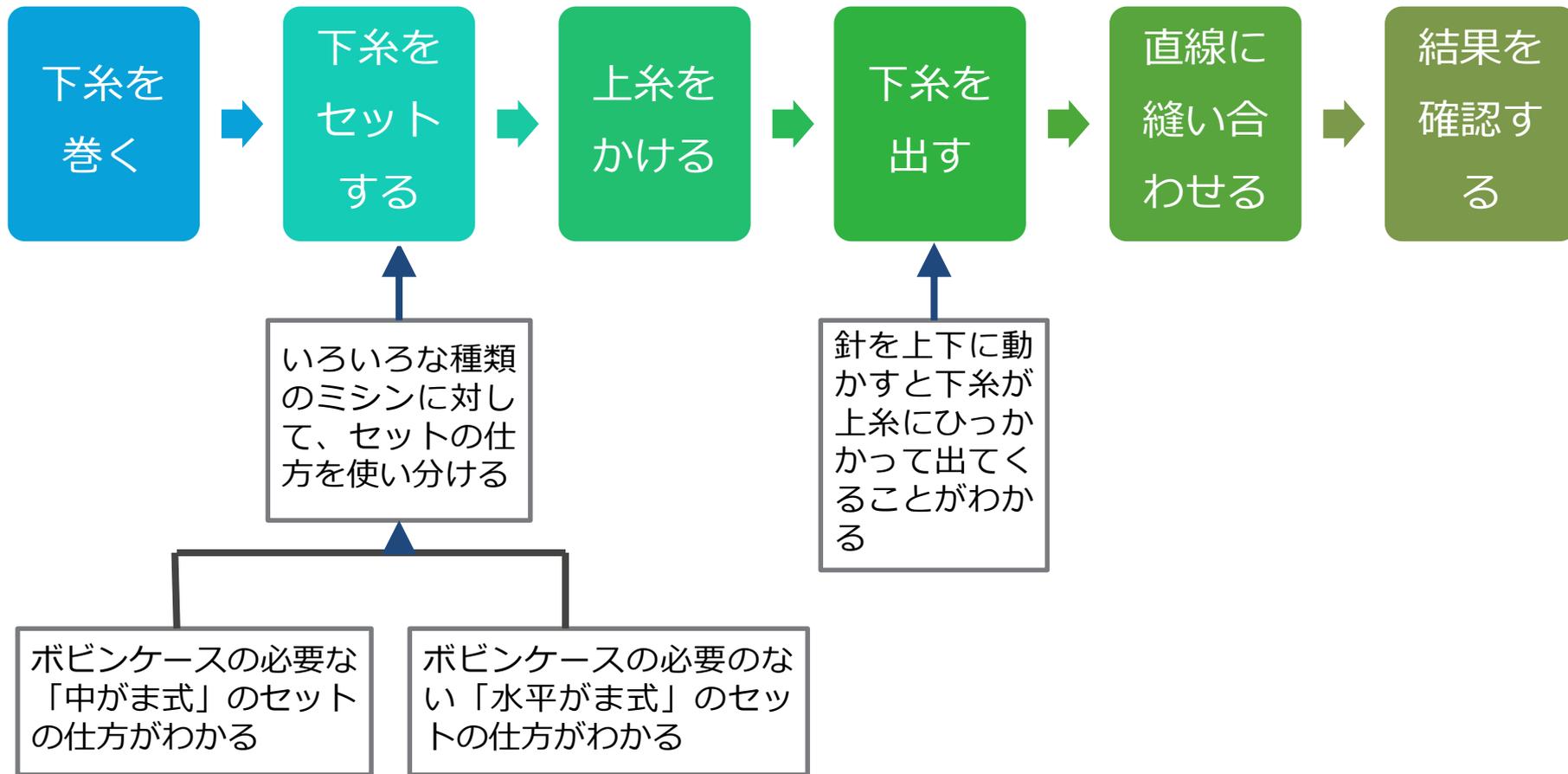
クラスター分析の例「魚類」



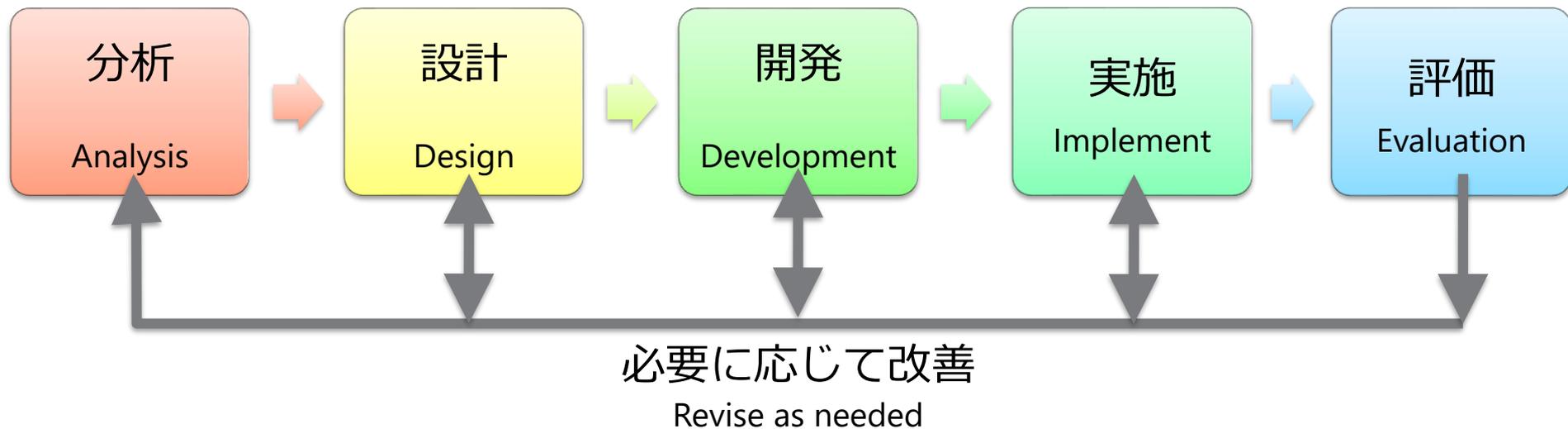
階層分析の例「面積を求める」



手順分析の例「ミシンで直線縫いができる」



ADDIEモデル



引用：授業設計マニュアル（稲垣・鈴木 2015）

ワークショップ

- インターネットで、いくつかの教材を調べて、その教材の有効性を5段階で判定しなさい。そして、どのような要因でその判定結果になったかを、グループで話し合って書きなさい。

【ポイント】

- (1) 評価規準を策定
- (2) 評価方法の確立
- (3) マトリックスに記載

参考 シンキングツール 黒上晴夫他著

「教材開発の基礎としての インストラクショナルデザイン」

第4講 教材の分析と設計

久世均
(岐阜女子大学・教授)